

PHI J 受講後の感想

はらだ DentalCareClinic

原田洋介

この1月でPHI Jが終わり、去年の5月から続いていたなんともいえない緊張感がふつと和らいでいます。

自分は、大きな勉強会はあまり参加したことがなく、参加する前はちょっとした不安もありましたが、築山先生、仲川先生、福田先生、そしてPHI J運営にかかわるスタッフの皆様にお会いした時点で不安はなくなり、これから始まるPHI Jコースに胸が高まったことを覚えています。特に築山先生は同じ大学で先輩でしたけど、なかなかお話する機会もなく、PHI Jで気さくに声をかけていただけるので、本当にありがたかったですし、先生の人間的な魅力に惹かれていきました。

PHI Jが始まると、先生の理路整然とした講義に深い情熱そしてたまにくるジョーク、それらがうまく融合されて本当に何時間でも聴きたい講義でした。また、ライブオペは先生の頭の中にある理論をそのまま生の患者に外科手技として変換、実践するというのを直でみることができ（しかも何回も）勉強になりました。ただ、外科処置の場合は予定も変更することが多いとは思いますが、その時の応用力や閃きというものはすごいなあと思いましたし、それを見られたのも幸運だと思います。実習も、バラエティに富んでいて先生のお手本があってからのスタートだったので理解もしやすかったです。もて縫合練習しています（笑）

講義も実習もライブオペも本当に勉強になりました。これをきっちりスタッフ全員に落とし込みながら、基本の知識としてもっていこうと思います。

発表に関しては、MTMとPHI Jののりつた流れで治療していきながら福田にとっても勉強になる患者を選択しました。福田も患者に接していく中で患者の健康のために食生活や禁煙のアドバイスを行いながら、歯周基本治療を一生懸命にやった結果が出たと思います。築山先生がいつも言われていたように、MTMという患者参加型の治療工程の中でいかにカリエスとペリオの病因論を患者に理解してもらうか。そして患者の行動変容につなげていく。今回の症例に関してはこれが上手く奏効したと考えられます。

PHI Jに参加させてもらって改めて確認できたことは治療の質とOP医院としてのクリニックの質を両方成長させなければならないということでした。治療の質は自分の力でなんとかできますが、OP医院としての質を考えた時にはスタッフと共に成長しなければならないので外部からの刺激を取り入れながら進んでいきたいと思っています。また、PHI Jで知り合った先生はいい仲間として巡り会えたことに感謝しています。

最後になりますが、築山先生、仲川先生、福田先生、そしてPHI J運営にかかわるスタッフの皆様、本当にお世話になりました。すばらしい時間をありがとうございました。これからもよろしくお願ひします。